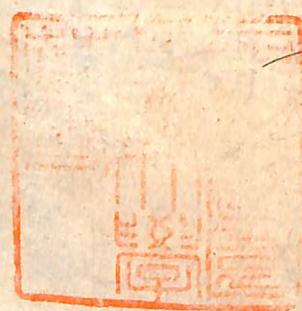


911.1
X

樂歌官富華文化通上一
毛



東

一
檜

閑齋諸持大人精

園梅明大人

栗園千壽大人

堂安久樂大人

捨魚大人選

千里必究

不許翻刻

都

面燕

一

檜園梅明大人

栗園千壽大人

堂安久樂大人

捨魚大人選

千里必究

不許翻刻

芍藥翁

興歌舞手向花

追福會

嘉永三庚戌

鳳鳴閣思文輯

山水藏版

十二月成功

叙

長根翁者洽通本朝典故博覽異邦
載籍而其於修辭也宛如絲縷之聯
綿似春流之激灑也其於詠歌也專
主斬新力除陳腐竟至一洗天明調
之舊染以出一家機軸遍使海內作

家化其風其功偉矣哉初吾鳳鳴師
自欽其高風以歌伐木於江都以來雲
山懸隔唱龠不息三十餘季若一日也
而翁已逝矣師亦將斷其琴焉今茲
方遇其忌辰於是師追悼之情悽々
動心目欲徵其同好之嘆而言祭其靈
及其雅帖已成將上梓以布于世爲予
聆之曰詩不言乎相彼鳥矣猶求友
聲矧伊人矣不求友生神之聽之終和
且平其只求友生尚且神嘉之然况欲以
善心做若事乃錫其慶無窮已耳乃
知其靈之所安且享豈其可測乎師

曰善矣即使予筆之予不揣不文遂

書呂題其端言

嘉永庚戌中秋下浣中山人取張禪餘
採筆於德星樓上



歌はるあはれにえりひわき事も
来はれまがれどあれ年をかむとせ乃
きのむすれとくみゆめとすよれと
ゆゑあまとまけもゆめゆづゆゆ
あくともゆきやふくわおれ 稲草
はらうてゆくわらぶら草れどもとゆくよ
あくひ葉をねむ

おひ様のうへおまつりの鳥の若が歌をかく
おひふとおまつりの手刺者を歌うておは
まつりやがまつりの歌をわざとや人を
みまつ森とかまにゆのうすむおひかみて
ほひまくおまつりの歌をかうやう乃ちまきち
ゆくさむおまつりの歌をかうひくひくおまつり
おまつりの歌をかうやくおまつりの
おまつめたりひめまつあらみゆかるをかく

事の記述すへば見るにうちふらうり
めづらうりあきはらのめづらうりあ
せんじゆくらうり

前編

勝田清祐

序四

もむきの巻序

とく者なまづつめひとすまにしるるか
はくもくちでふたほ代はうらてくまく
えりはるこ事小引ひりやくは哉三の
をせよ草へのむ新波のまふすみのす
あくもじこひゆのああやけくわ陽明赤良
なとくいのくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく
たくわくわくわくわくわくわくわくわく

かくやつたから枝、さきのまつりにまつりたれ
これにまつりたれやあらわせたれいじゆくまつり
枝、さきのまつりたれいじゆくまつり
ほんのまつりたれいじゆくまつり
ほんのまつりたれいじゆくまつり
ほんのまつりたれいじゆくまつり
ほんのまつりたれいじゆくまつり

九
例

- おほよき詩歌とか小鬼神をも詠ひむるをあらゆる所からく慷慨
悲哀の肺肝すうり出さるやうなあいがのはどい悲憤をれ追悼
の愁情より出豫せられりゆゑりつゝまことに秀峰多くとくら
五人の宇斯くうち雅力を究ゑ精選せられりゆゑ上本の歌
いだまきし神感鬼哭のあらむをかくひともひ卷と被け
筠と崑崙小曳き歩を紫山小進むよひをく美玉面オモテ
映シニシメ真金眼小輝き實ふ絶世の雅編シメ川をくはと
あめ道たゞらひ初學の為よきよきよき道あるがくよれき
作例オモテササもりをへよき兼題の春花の中やく梅櫻をや
をあやよそふ部類とかのうちのうち作例探索の一助とな

つまみを便アキラケテアキアキモレモリテ世の人の多くよ
うへらぬもやあげねどもつと笑ひをゆるもたゞの
一巻かどりあづれハ毀譽のたほうらんほと興物結縁の歡べ

小説

○ おほうこの催し物もと題摺の定の外ハ上本をすくにあら
そへちよどもあいだはうともうけまほり出立のつゞくと
ほくおどねのれはらくあくふうむわとうが長根居士と
ツキボ追慕の情深きと此道の特ふ執心あるとみ二つより出一もひ
とふてかの忠臣孝子の法と犯して節と立つるのゆめびら
ふひぐくのんあいだみゆくとかくのやそれと色を薦
制外あくとまく心ねく是と省くふ忍ひうそほひかう

九二

やうの大さうとひかへつ故翁毛草葉の陰ゆくきとをひく
ほの雅懷をとくとくはあ

○ 一評十三位以上の歌ハ悉く画上ふ力もとを定あらまう
とへ画上のとあらまくとつふをやとふをと画と増へ

てなまらふ秀歌をつむじととひら歌の歌員々
さうの葉敷テラスカふ及びとくかの鵠脰不可剪シル鳬頭不可續スルとい
ふふ似くらがまと、一評十五員上等と画上ふ掲げるとと
なまく十五位以上の歌ハたゞ相評ふ一点あくと
点數ひくとその判者の見所あくとえり出られし高点
かうとじ歌の位と高くとつべーと十五位以下をあら

相評よく揃ひと点數の多うるハそいまと萬人の眼とまわる

秀歌をもと二種とてふほくきの名歌といひつゝもの
優劣ハおそれがめどうきをとたもやまうどぐゑんを
ひととふき、わらべにて先ふかのせる甲乙録ハ例の如く
わらう点數の多少小隨ひあり画上ハ位ふよすとて歌と掲げ
く作者と判者の堪能と互ひアわらもく候ふゆゑと
おれきあひ春宦務ありて東の都へ赴くるこうはらの人々
例の待詣とうりることをわらへて春鳥ちく題詠とあると
ほまきせきとありそぞ中まと四方の諸君の秀吟勘うら
む空／＼反故ホグとなりとむはあらう珠と埋むふなき／＼
おどり一集とあひて諸君の奇玩を備へらむ幸いふ春の
花鳥の對を似合へときども餘興ヨミナとなりて卷の終ア上木し

川りうとねづちあひかのきひとくもの拙毛選少く本集立評
乃高櫻すらるぬをらひまくらぬをらもあらはどくじ
人くもすみ縁故もくらくのねづち点貫の高下ふぬ物

庚戌中秋

一釣翁識

至清堂所藏芍藥翁藤川百首詠藻抄寫

藤川尚光
古都高麗

雨中待る
行えり 待をしもす雨の日もすれきて廻るまの山宇
被る寫人
絶のめじ延う御て峰とくしきりがみの水のみの邊
遠望山れ
れどもそつせ山をめねむきのくろ雲の雪
曉度病を
致あす庭うらむかづきの木のねじりのそく尾
故鄉久未
従れんがまもとひじてし春のゆづ庭のぬと

凡
三

興歌當夢化乃花

一闇齋大人

燕栗園大人

面堂大人並選桐園大鳥

捨園大人

至清堂大人

一
舞
而
捨
至

梅

梅の花落葉の如きをかづく
徳源の筆の如きがまたかづく
十五年八月

江戸 千栗庵友咲

其の事と風景の如き

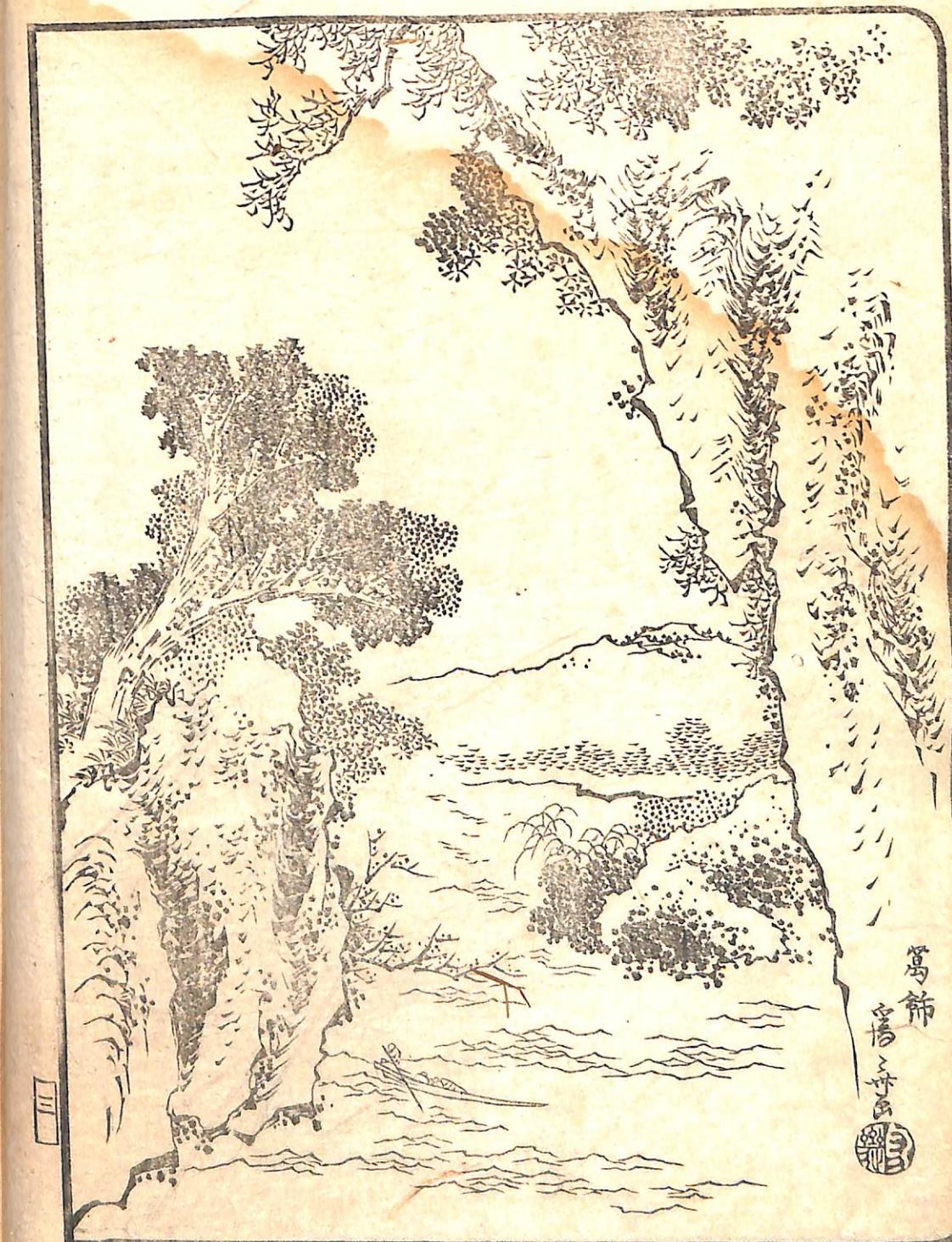
有幹園樹綠

參めども梅の木前花々を車づりて見まつた事一す

便之館集

十三
一
九

紀伊若山



江戸 鳳雛子清音

花鳥屋琴雄

立十八十一
さくら梅ふ新鶴とくへてひるの岩山やいとらむうり
立八八土八

立七八七
新向と花くのうらのをゑみ詠ふに様くらむ

全

琅玕園直枝

文ありし梅やあそんどうかとやわくふせとやくとくと
立八七七八

うめの花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

名古屋

槇柱亭寄躬

立十七
うめの花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

遠江見付

草迺舍鑑成

梅の花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

吉川

便々館

立三十一
梅の花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

江戸

牡丹樓福成

立三十一
梅の花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

一閑齋

立三十一
梅の花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

牡丹樓福成

立三十一
梅の花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

全

牡丹樓福成

立三十一
梅の花くらふまとゆくはくらむとくまくらむ

面

堂

立八八五
あやうくおゆみてゆゆすくふらうかの梅のこらもゆく

立七八一
それぞれ白きらむをうのうる雪すあやの音とくらつ

立八八八
神あれ神あれ神あれうらむのえねをうらせのまひおまえ

立八八一
ゆくあく梅あれうらむのえねをうらせのまひおまえ

立八八七
房あれうらむ風のれきくめのえねをうらせのまひおまえ

立八八七
うめあれうめあれうめあれうめあれうめあれうめあれ

立八八一
うめあれうめあれうめあれうめあれうめあれうめあれ

立八八一
うめあれうめあれうめあれうめあれうめあれうめあれ

立八八一
うめあれうめあれうめあれうめあれうめあれうめあれ

立一三七
うめあれうめあれうめあれうめあれうめあれうめあれ

龍卧園待時

鳳鳴閣

調歌舞堂真集

常陸麻生

俳風堂譯員

守

満

池田千栗菴

江戸牡丹樓

天童調歌舞堂

金峯原歌

江戸至清堂

花鳥屋琴雄

江戸

鷦

立へ立へ十
かくの時萬葉をもく風がふきうるをもくと梅の香をほ

立へ立へ

金龜園文林

下野真間

寄

立へ立へ十
かくの室のそよぐをかくて立へ梅の風といきうとゆきを

立へ立へ

金龜園文林

下野真間

中翁観

立へ立へ十
う立へ立へとぞとぞとぞの梅の花の香の神あれ香を包み立へ

立へ立へ

中翁観

立へ立へ十
う立へ立へとぞとぞとぞの梅の花の香の神あれ香を包み立へ

弓

彦

楓稿亭贊

門

大阪

四種壇内杉門

下總鈴子

金樽

桑名

竹廻屋益根

薩摩相馬

綾浪

江戸

落栗菴

模露園照蔭

汀綾浪

正照林

黙守

五十五八主。

江戸
至清堂

五十五一七一
南より

全
花柳園

五十二二一

豈れどもとぞ
おもあつてのむの

梅ふとももよ
よのうの梅くわ

陸奥本松
清笙園

稚枝

十。五十五八
全
燕栗園

うめのゆへ
あめりと
人のかへ
あめりや
梅の宿
貝のゆ

。五十五十
一閑齋

うめのゆへ
あめりと
人のかへ
あめりや
梅の宿
貝のゆ

唐森



五十五一七
全
糸迺門

うめのゆへ
あめりと
人のかへ
あめりや
梅の宿
貝のゆ

五十五一七一
全
面堂

うめのゆへ
あめりと
人のかへ
あめりや
梅の宿
貝のゆ

梅のゆ
あめり



セセ一ハセ 生身の事よりおよへうものほんとかどる梅の花風

江戸和

セセ一ハセ 売とあらまちゆづくら梅の花もあらハつとも月新

全

セセ一ハセ くらひのあらむとらく梅の花をあふるくらすや

燕栗園 月

立セセ七十

立セセ七十一 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

堀内 梅 光

立セセ七十二

立セセ七十三 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

宇都宮 保志廻舍八鳥

立セセ七十四

立セセ七十五 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

武藏松伏 月釣舍松甫

立セセ七十六

立セセ七十七 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

若山 王蓮社

立セセ七十八

立セセ七十九 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

仙臺 大椿堂天年

立セセ八十

立セセ八十一 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

江戸 檜園梅明

立セセ八十二

立セセ八十三 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

武藏越谷 月歩菴行秋

立セセ八十四

立セセ八十五 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

浅裏菴廣好

立セセ八十六

立セセ八十七 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

仙臺 檜文園島成

八

立セセ八十八 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

脩身堂軌玉

立セセ八十九

立セセ九十 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

三餘亭枝道

立セセ九十一

立セセ九十二 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

梅屋雀子

立セセ九十三

立セセ九十四 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

鳳鳴閣

立セセ九十五

立セセ九十六 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

京 華廻屋通路

立セセ九十七

立セセ九十八 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

大坂 雪廻門

立セセ九十九

立セセ一百 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

江戸 桑門靜香

立セセ一百一

立セセ一百二 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

花柳園

立セセ一百三

立セセ一百四 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

月

立セセ一百五

立セセ一百六 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

心

立セセ一百七

立セセ一百八 うきづくあそれこりはうむもととけくとく病く

耕廻門佳安

三ハハ主主

江戸

千菊園

あひへとすと、いのとくわにまつて、人をとよどむ

下野鹿沼

かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

江戸

十ハ主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

和門吉明

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

守

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

足

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

黙

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

江戸

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

耕哥堂

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

全

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

旗廻屋音高

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

正照

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

仙臺

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

平柳亭

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

江戸

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

落栗庵

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

下野方

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

檜松園明岑

十主主
かのとをもあひりよと、まほきあがるのあらわすとくまもや

田

主セセセ土

江戸裏著

主セセセ

吉星子

主セセセ

鳳鳴閣

主セセセ

廣園光居

主セセセ

一節園

主セセセ

鳳鳴閣

主セセセ

龍屋海城

主セセセ

六珠園光雄

主セセセ

千歲巻松成

主セセセ

名古屋

主セセセ

佐野

主セセセ

下野千岁

主セセセ

千歲巻松成

八三
大立主
納
めりかふ

つみの斜
らむ

ちよくわら

風
きよらむ

高
たか

江
戸
倭
文
園



匂櫻のりそらをよしとせんかくひまわる風

江戸

天童

櫻坊華々

歌堂

まごせうくちぬどさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

調歌堂

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

通環亭真袖

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

浪廻門清子

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

千菊園

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

名古屋

便々館

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

至清堂

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

全梅

まごせうくちぬとさのわうとおかきつまうざくくろ
河の外郎ひうす本校とくへてや梅のせよすく初見

江戸

觀

五八七三七
春の日も風あまひしてくわんじゆめに梅とちらきみて

見付
草廻金

五八三三一
風やくさうとさくやくさうき陽田のこくくめくみゆ和人

江戸
梅屋

五七八三七
さくくく風吹きくははくくく吹きくははくくく吹きくははくく

下野真名
真名廻門文照

五七八十一
さくくく風吹きくははくくく吹きくははくくく吹きくははくく

陸奥八丁目
百舌鳥廻屋排

五八七一八
さくくく風吹きくははくくく吹きくははくくく吹きくははくく

江戸
梅屋

五三十八一
春の日も風あまひしてくわんじゆめに梅とちらきみて

一閑齋

五三七一三
まくわゆる梅とさくやくさうくははくくく吹きくははくく

江戸
泰星閣十史

五三八一
まくわゆる梅とさくやくさうくははくくく吹きくははくく

花の本千春
落栗菴

五三八一
まくわゆる梅とさくやくさうくははくくく吹きくははくく

佐野
六羅園介脣

七十七

越谷

喜久園重秋

全

あと枝はさきみちやとたるまつてとくにあらわすあれ初見

全

一八三七

江戸

あらわすは先はくとくへくとくへくとくへくとくへくとくへ

全

。三七七八

真榮葛傳

あらわすをひとくへくわむまほくとくとくのとくはまわす

全

。三七七八

喜久園重秋

あらわすのちくら歌をかくよせとゆうとハはりまくす

全

。三七七八

一開齋

あらわすのちくら歌をかくよせとゆうとハはりまくす

全

。三七七八

鳳鳴閣

あらわすのまほくとくへくとくへくとくへくとくへくとくへ

全

。三七七八

喜久園重秋

仙臺 千衣亭唐綾

江戸

名古屋

便々館

守黙

江戸

竹仙園七滿

全

燕栗園

全

檜園

全

一開齋

全

落栗菴

全

面堂

江戸

荻廻屋音信

伊勢筆

全

一開齋

全

園

全

喜久園重秋

セ一大主七
鳥の音

鳳鳴閣

されそくの

頬力せと

あくや

さりとて

いわゆ

五三十三一

江戸
梅屋

清されて

風ふぢゆく

うきあひ

かねやすき

う那



十四

吉一主五七全
そゆゆう 全
浅裏菴

掲の向

う人の

いづふ

いづま

七十五七七

全
茅舍

五七八一五

全
倭文園

掲の向

とそくられつ

いづま

いづま

いづま

いづま

いづま

いづま

いづま

○

三八十七

江戸浅裏巻

をすきうをぬくはくとえりつるすかとえりとうせむ
八十十七
ひくふくうすく時をちくらんおもくらるみのつえ

三十八七

鳳鳴閣

世のあくとくせそおもくらんおもくらんさくはやれおもくらん

三八七

雪操園松子

三十八七

常陸木詩

三十八七

國風園良壽

三十八七

仙臺

三十八七

鳳鳴閣

三十八七

雪操園松子

三十八七

花門

三十八七

甲府

三十八七

花守

三十八七

桑名

三十八七

花守

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

耕

敬

堂

社

丹

樓

明

櫻

坊

岑

聚

廻

屋

樹

園

悟

景

彦

彦

良

壽

子

常

陸

木

詩

國

風

園

良

壽

江戸

雲井園

傳

信

十六

江戸

雲井園

傳

信

五八七十七 うきよまくらをもとあてむるわのをす

松戸 栗々 蕃

三五八七七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

十セセ五セセ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

十八セ十一 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

八セセセ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

八八八五セ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七七八セセ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七七八セセ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七七八セセ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七一十一八 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七七七セセ まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

五八十三一 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

四七七十七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

三三八八八七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

三三八八八七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

二九三十八 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

二五三十八 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

一九三十八 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

一五三十八 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

一一三十八 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七七八八八七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

三三八八八七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

一五八八八七 まことくへ向まつてかづまつて風のうめいはあねん

江戸 耕歌堂

七十七
かみくら

あふせん

おとづく

遠くうき

鳳鳴閣

あふせん

おとづく

遠くうき

五十八
主八

江戸
茅舍

おとづく

あくせあと

達うき

五十八
主七

不二門
守默

のとづく

せとづく

あとづく

。八
一
開
齋

おとづく
あとづく

おとづく
あとづく

おとづく
あとづく

おとづく
あとづく

。八
一
開
齋

おとづく
あとづく

おとづく
あとづく

おとづく
あとづく

江戸
落栗巻

鳥糞



五七八十五
さくらの木の下をとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

三一七七七

世のうきめあくもとおせとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

十十七セセ

福見りふとおせとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

八十八。

おみのまくとおせとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

八十八。ハ

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

八十八。ハ

江戸 聚

舍

至清堂

全

檜廻屋

全

浅裏菴

全

鳳鳴閣

全

棋廻屋

全

一閑齋

全

波

全

梅園寶成

全

陸賈盛岡

全

錦曝亭集

全

三十

五七八十五
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八六
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八七
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八八
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八九
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十一
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十二
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十三
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十四
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十五
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十六
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十七
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十八
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十九
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

五七八十一
人

あゆとおみのひとおせとおせとおせとおせとおせとおせ

江戸 信夫

観水含深安

江戸 緑樹園

守 默

守 時

守 默

吉川 朝月齋輝彦

江戸 百舌鳥煙屋

江戸 千代經

名古屋 便々館

江戸 八丁目

江戸 鳳鳴閣

江戸 尾張春浦

江戸 梅園寶成

江戸 陸賈盛岡

江戸 錦曝亭集

十一セハセ

西方

夢

新ちうるあらうよおひおき指の毛と袖をつる

江戸 霽花園夜笠

ねちうるわくいわきも枝かとおとがきあわのとわられ

全 一 開 斎

ちうるわくいわきも枝の毛とおとがきあわのとわられ

江戸 仙臺

ちみ川りくくいわきいわきいわきいわきいわきいわき

柳湖亭宇野

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

陸奥大槻 敬梅園梅胤

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

鳳 鳴閣

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

和 足 堂

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 全面

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

心 月

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 宇都宮 桂花菴望秋

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 栃木 通天園稿住

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

三 千

四

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 琅玕園 守 默

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 全寄 脊

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 麻生 仰言舍厚古

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

吉川 浅裏巻

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 春山亭花守 觀 山

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 豊井園 黙

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 天山 三五屋景住 觀 月

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 真岡

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

大阪 富山屋松鶴 守 默

からりくわきわきわきわきわきわきわきわきわき

江戸 金子

ニハセ士一

アラムヒハラモタマシテムトマシテムタマシテムタマシテム

セセセセセ

千葉 青葉亭竹九

鹿沼

廣達

光林

鳳鳴閣

柳榮子

鷺井園

花門

鳳鳴閣

面堂

千菊園

雲井園

面堂

王蓮社

若山

江戸

千菊園

足

和

茅福園白頭

江戸

足

柳榮子

全

鳳鳴閣

山

柳榮子

全

綠樹園

足

柳榮子

全

蕙

山

觀

茅福園白頭

仙臺

柳榮子

全

鳳鳴閣

足

柳榮子

全

鷺井園

千葉

葉家志

五十一

江戸玉林舎

葉家志

五十二

江戸葉家志

叶家志

叶家志

五十三

鳳鳴閣

七十八
高利行義
山中

江戸千菊園



四十一

七十九
木の山
聚
徳星樓

木の山
聚

徳星樓

木の山
聚

五十
大正一

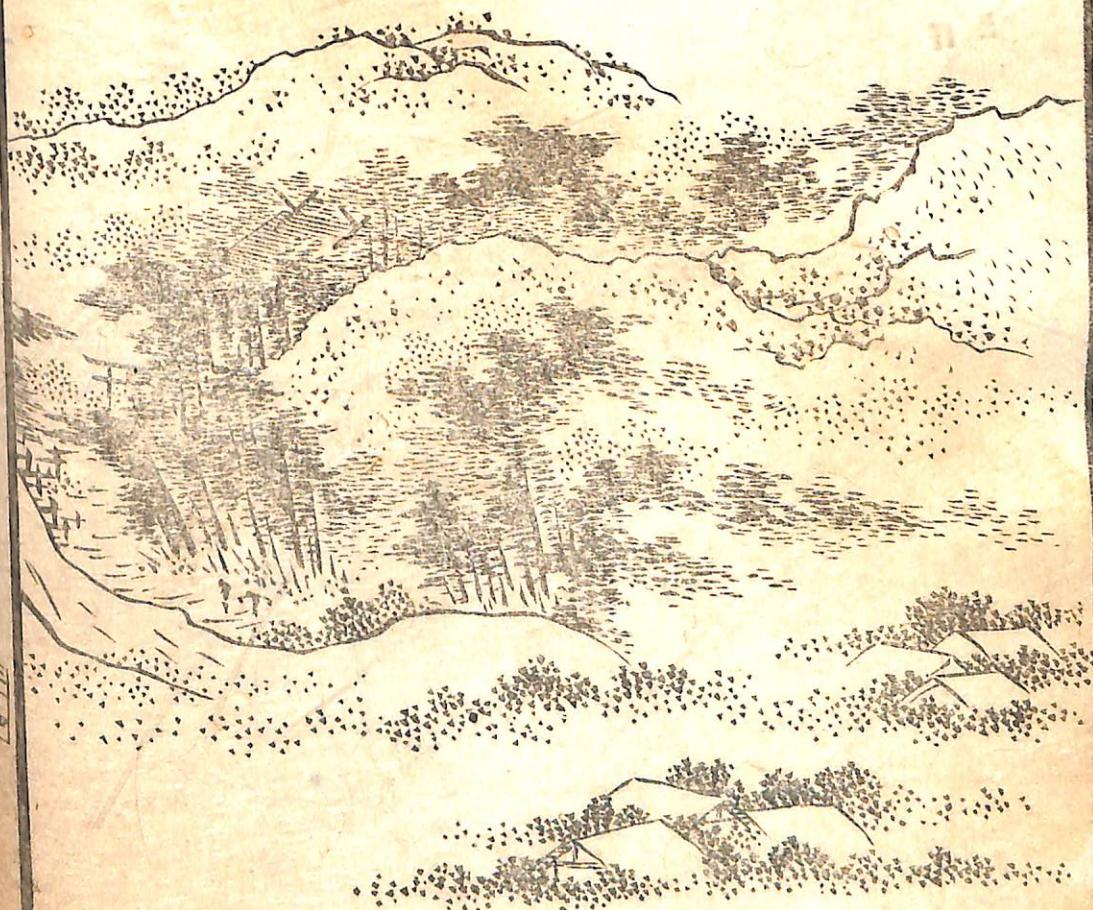
捨立山

斜坡

山中

江戸常磐堂

居平



宇都宮

花廻屋春人

江戸 在京

舍

御

古

路

風

園

茅

津

常陸清水

平瀬屋津丸

江戸 寄

守

千菊園

全

菊雄

櫻

坊

廿五

仙基 千箭亭

江戸 守 默

面 堂

至 清 堂

名古屋 便 々 館

心 月

鳴 間

信夫 觀月亭秋生

甲府 萬代山人

太平時保

鳳 桑園竹村

守 默

五ハセ十一
五ナハ一セ
山をくらはすとあつまきあらわすとあつまひをゆかのむ
五ナハセ一
桜をくらのじへあつまひをゆかてあまのむゆつらむ
五ハヘ一十
あはれくとゆかくらん桜をゆかてあまえり
五ハヒ一十
ちくさ泡のあくふはくとやう人のむくらうふうたる
五セナ一ハ
川の音ふるひあらんねの音の音の枝を
五ハナセ一
やくらむる様をくらむる音をやくらむの音をゆかの
五ハセセ八
琴とくらのゆのゆあらわらむるよなとくほ
一ハセハセ
る風の風をくらむてくらふのくらふするあらわくの
ナナセセ一
うれしまでまきをまくまくひあらわくまくひあらわくせは
ハセセセ一
柄の柄のまくまくまくまくひあらわくせは
ハセセセ一
山をくら花の山をくら里人のむちもあらわくひ

五八十五一
 あともくらむちを留とえしよりてまたとのあらわさ
 らくいはるかうひを餘れるれのまくへるのつれ本
 一
 一十十九一
 三とれてこゝれどくやうすものまやのまやの新宿のものかに
 土七一一七
 開田たれづかゆふくちうていかのあことあらう
 上一七一
 そくほくうきうそかくはくがくとくとくとくとくとくとく
 十一八一八
 ちうゆうきくわくとひだりをすらうとくとくとくとくとくとく
 ハハ十一
 をくもくちやをくもく極めあらうふ神のめいそりと
 ヒハ一主一
 ねせあねれこくめだまもくちて茶うらくとくとくとくとく
 七九一主十
 くあよと梯の馬とくとくとくとくとくとくとくとく
 一一七一七
 ふくめねねうとうを角よぎのくよまくせとくとくとく
 一七一主七
 けいへおぢれいきうとくとくとくとくとくとくとく
 一五十五七
 まくもくの城りとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 通環亭
 一
 静
 江戸柳南亭梅彦
 仙臺
 柳南亭梅彦
 江戸耕歌堂
 天童調歌堂
 仙臺
 柳葉亭鷗房
 江戸
 楠木
 駿
 観山

廿七

觀

山

五九一八
 絶りきつてゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 十一八七
 よくまくわくのまくとくとくとくとくとくとくとくとく
 十一八七
 梅見つとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 十一七八一
 ちくく候等とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 十八一七一
 きくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ハ七十一
 おうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ハ一十七一
 おゆきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ナ一八十一
 うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ナ一主一
 あゆきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ナ一八一主
 うまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ナ一八一主
 あゆきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 ナ一八一主
 うまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 月昇亭輝海
 吉川
 仙臺
 千衣亭
 江戸
 緑樹園
 葦園
 便々館
 名古屋
 园園

一八七十一 かうくのよきとくとくの歌の歌が小庭のゆふとくとく

楨榮三千文

一一七十八 落葉れそりそり風すくはくからぬまめの落葉

佐野

素受乎

一一七十九 落葉れそりそり風すくはくからぬまめの落葉

江戸

花月堂

一一七八十 かくのねふ橋とらせそくを變れくのあとくとく

全

芳鑑社

一一七八十一 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

鶴廻屋三枝

在江戸

一一七八十二 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

旭園輝雄

江戸

一一七八十三 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

至清堂

伊勢四日市

一一七八四 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

鹿廣

江戸

一一七八五 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

望屋雅文

江戸

一一七八六 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

達

江戸

一一七八七 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

樹園

江戸

一一七八八 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

連屋

江戸

一一七八九 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

躬

江戸

一一七八一 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

本松竹

江戸

西光

江戸

居

江戸

村

江戸

正

江戸

照

江戸

一一七八二 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

櫻学園正雄

江戸

開樂金繁

江戸

栗々

江戸

菴

江戸

一一七八三 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

綠搞園和流

江戸

天雲仲道

江戸

千糸亭

江戸

一一七八四 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

さくら園

江戸

彦

江戸

一一七八五 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

佐野

江戸

舍

江戸

一一七八六 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

素受乎

江戸

受

江戸

一一七八七 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

佐野

江戸

受

江戸

一一七八八 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

素受乎

江戸

受

江戸

一一七八九 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

佐野

江戸

受

江戸

一一七八十 かくのねふ橋とらせそくを變れくのかくとくのくとく

素受乎

江戸

受

江戸

江戸
一開齋

。八十五七
志のまき

梅のまき

おひる

おひる

あらゆ

あらゆ

江戸

七一八五七
高のまき

つるやまき

わらじまき

めぐらまき

七一五八七
さとうまき

かとうまき

せんざまき

せんざまき

せんざまき

鳳鳴閣

まき

主一八十一

江戸柳栄子

まき

まき

まき

まき

まき

高森画



仙臺

柳班亭武虎

見付 琴 妻女

指とくとく音をうつほのかへたふをひのせくらむわ
さくらふさくらふはひのふたまきとおもとみくらむわ

風えうのうへくへたのうみをださんの人とくらむわ

まちくみめとくうまくふおうまくがんとあうまく

まとうねくせくせくまれてもれてもれともれともれ

まとうねくせくせくまれともれともれともれともれ

まとうねくせくせくまれともれともれともれともれ

花のれきねのくられくられくられくられくられ

くられくられくられくられくられくられくられ

大阪

窓廻屋

金子 梅田莊司 菩提山 満觀山 津萩廻屋 江戸

朽木 紫雪庵歌樂 江戸

西三

かくあるをのくとハもるのあらむすこゑむくわ

むのくらひうらしてえとときくみ風ひかす

くられくられくられくられくられくられくられ

二本松 桑名 宇泰 星閣 枝 雁鳴閣 柳谷堂虎彦

仙臺

梅田莊司

觀山

滿觀山

津萩廻屋

江戸

紫雪庵歌樂

西三

金子

梅田莊司

觀山

滿觀山

津萩廻屋

江戸

相模古沢

五常園美知業

八日市

南海堂靜好

九臯亭躬雀

見付 琴妻女



セ一セ土立
月枝のひ

江戸口屋

三井寺へ

入ありう松

一七八五十一
武藏松伏
松月樓
守

一七八五十一
江戸花廻屋
あくよの後
わざとくを
わざとくを
わざとくを

一七八五十一
江戸花廻屋

五五二十八
金浅裏巻

よ
さとくを
さとくを
さとくを
さとくを

十一二七一
金材月園
茂樹

高嶺勇



米山 豊亭

至一園

千文 九

千得

竹

仙臺

虎

紀伊田辺

犬山

景

彦妻

住

立花

薦文

津柳

寃

憲津葉女

歌

舞

種

雄

觀

山

在江戸

輝

草

觀

山

新舊田

檜鏡園明雄

正照

照

名古屋

豊通屋守稻

東方舍桃生

翁

宇都宮

大谷菴花樂

正照

山

桃

新舊田
檜鏡園明雄

柔名

通

屋

守

稻

東

方

舍

桃

生

翁

宇都宮

大谷菴

花

樂

正

照

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

弱

桃

山

觀

求

天

日

之

八五
七七

鳳鳴閣

セ一八十七
おもてくらひのゆのゆをかどりの音かくく
五十七三ハ

江
和戸花

五七七士八
さくらのまつりをあきらめかのまつりは野柳のそれ

全
集

ハセキ。五八。それを元氣の氣化の氣に従ふる。よもや萬物の氣を起す
ハセキ。一
ハセキ。萬物の氣を起す。萬物の氣を起す。萬物の氣を起す。

全

十八ハ一
タマシキアリ

鳳

ヨハニ主一
ヨハニ主一の御のあれあるがのよのよのあらわし

卷之三

五十八
三月三日 予の御のまつはやかみをくわすむらにあらわす
一七十一

花酒海人野

梅の花が咲くと春とおもひてゐるのを覺え
一十一
ゆふと云ふのもううやく梅の花

吊陸江居士

梨

三

三十一
かのうへなべの氣をもつてとやかくあらわすとてとくし
一一八 三一
三十一
柳栄子
仙臺
陸竹林直琴

柳宗子

飯田
松友子

時 柳 戶 守
保 菜 子 默

門

董

津
日吉廻屋照信

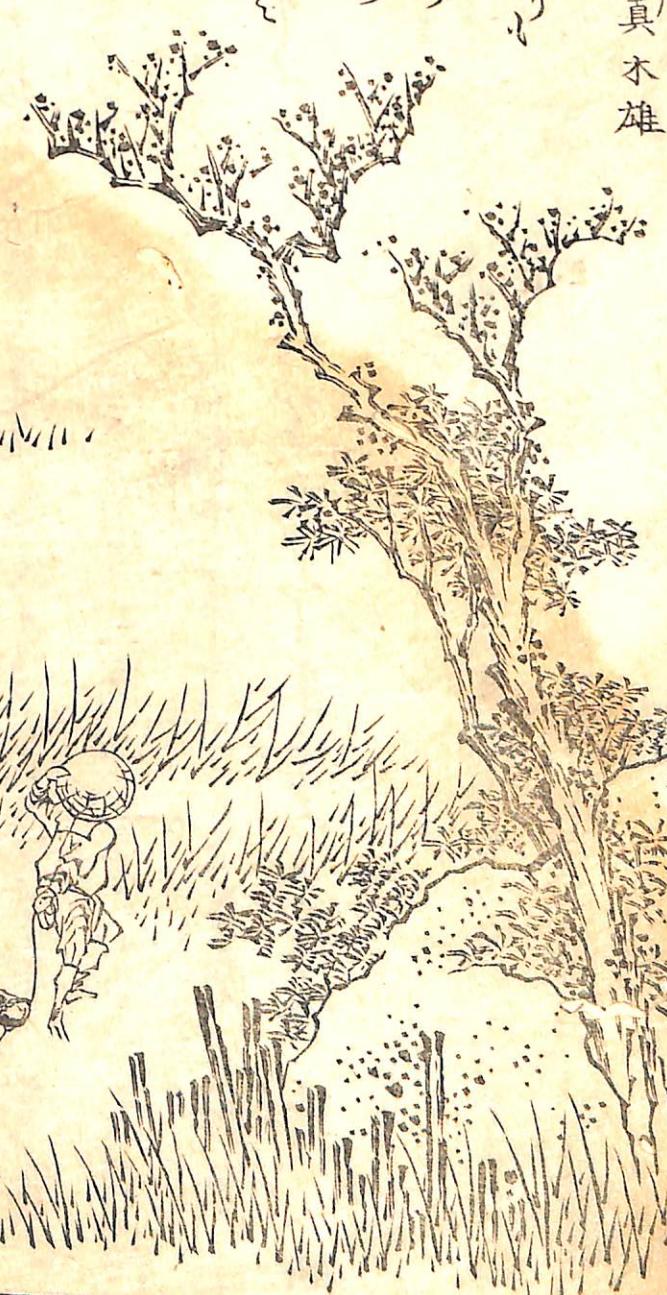
江戸 真木雄

おのぞく

日かく

まきの

日かく



筑波舍
茂蔭

あすと
ひよと

ひよと

ひよと

江戸
燕栗園

岩木根

岩木根

常陸大谷
綠萼園

おのぞく

おのぞく

十一五二
松風閣
鳳梧園
花門

おのぞく

おのぞく

十一五二
尾張大野
龍舟園
弘濱

おのぞく

おのぞく

おのぞく

高麗園

下野家

椿廻本稻丸

名古屋

便々

江戸

館

全

雀廻屋松門

桑里

大観

梅岡

彦

胤

鳳鳴閣

照

月

正

伊勢

分部

真

柳

華

春

魚

早八

和

足

舍

月

住

景

月

住

足

舍

月

住

足

舍

月

住

足

舍

月

住

足

舍

月

住

十五
三十八

杜若

喜びゆきすくれかみのむかひを拂はばる人を笑ひ

大阪 梅香園

五八七五七
まちねふとまのつまめみゆうとせうとせあひと

江戸 耕歌堂

江戸

ハ。セハハ
ともやかわゆるのよどむたるがくもぐくくみゆく
十。ハ一ハ
せうとまほほとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
ユ一ナ一ナ
きのじゆをとせんせんせんせんせんせんせんせんせん

全 燕栗園
全 仲道

山吹

八三三七十
妹ふ仙へ花の山吹川原ふまのるおとと媚やあらま

花門

七七三三七
かくと妹ふすくは妹あれやうくひもあくらうたの花

全 材月園茂樹

八八三一七
己の花のまなみと見ゆけむ想かくして都つとまの花

全 茅舍

一一三一八
おわづとくとひやすみせのくふきりと花かくまの花

天童調歌

一一八三一
千みくら健くらむて花をまんじくまくしてゆく井ゆく

武藏加奈川

三一七一
千みくら健くらむて花をまんじくまくしてゆく井ゆく

丸文

三十九

三三七七十

江戸 樟廻屋

八八十八七

全 花柳園

八八八八八

上野沼田

七七八八七

池廻屋龜住

七七八八七

江戸 残室草廣守

七七八八七

淳島 緑霞園春好

七七八八七

江戸 至清堂

七七八八七

藤波

七七八八七

名古屋 和足雄

七七八八七

仙臺千柳亭

月

五ハナハ一

江戸

音

めうつさとて不むもん大ものかとのもへりつゝきのふ

江戸

文清

山とこのうのむくよづらへて重みありありあらす

林道運屋

立立立七

子

立セナハ一

大坂

セセニ一

雪道

セセニハ

仙臺

カニモト

千畝園

カニモト

靜居

カニモト

江戸

カニモト

櫻

カニモト

坊

カニモト

江戸

十一十三八

春花雜

十一十三八

極くひなたのあきの穂はいのうのあわてにうつす

鳳鳴閣



一
大伴の
えの原の
あわくらむ

全
一問齋

。五一一
くふれまわる
めぐらすまち
斜え見る

三三三
みさみちくわく
あくみ海ねりそだつ
風色いづく色を
江戸梅屋

三三一
ひがの
ほひの
桜ちきみ
まうん

全
琇喰社

五一八
もほひあせゆめ
えゆふ
尾張
衣浦
錦曝草莊行
あてみほれあひゆと

五一七
やよ
ふきよ
あは
あれ
あく
あく
それ
その
きみ

名古屋

東河園

早雄



一七八一
宿園とひそやのまゝのゆきの行ひをもく跡を残る。清芳菴

真潤

十八八八
花の香の風ふ舞はせてあらむ桂の代達をもむ
十七七八
せうらの朝すつまた豆を免まされか佛の坐とぞりもま
七七八八
行ひまつらて哉をもあらうよまがうれせ
五八八十七
ちりくお花をうめくあまし人のあらうむすめのれとめ
花の香の風ふ舞はせてあらうほてあらむとぞりも
八八十八
花の香の風ふ舞はせてあらうほてあらむとぞりも
ヒナハハ一
ちりくお花をうめくあらうほてあらむとぞりも
十。八八七
あらうゆきの宿はもとれとぞりもれおもとつて
ナセ一七一
ナシく世からむ花を福事ももむかじふね
七十一一
あん年ハ梅の木植れす梅もももも果のうけ年也

江戸 烏山 江戸 守
守 雀屋松友 千竈菴 全和
全和 雀屋松友 千竈菴 全和
至清堂 江戸 玉蓮社 全和
足 烏山 玉蓮社 全和
足 烏山 玉蓮社 全和
燕栗園 江戸 烏山 玉蓮社 全和
園 江戸 烏山 玉蓮社 全和
園 江戸 烏山 玉蓮社 全和

あらうの間すとまどまづとや枝と静れてまづらる
さううとまえどじまづとまづれ、汗あむとまづれ
惜みぬまういあやまきぬよわまことなやまほ、猶まうら
ちみるわられぬねとひまづら月の桂あらひく一
金くよ見てゆくとまづれわざうあらひく絶くらゆく

○

君裏のうらと長恨居生のみあまのあらむ色

涙なづくよとれ

折るく花の限すとまづれまづれまづれまづれ

一釣翁

○

梅の花落きらせり、うらへり布あがむれ一枝うすせん。至清堂
まくはたちくはくはくがくゆふくの梅の花わらひて
やうめの梅ハ淡とあくらきながすまえなん房のひら
○

かのひまね梅の花うらへりととと耕を人を門のまく
甘露門

燕栗園

興歌當夢化乃花大尾

四二

餘興兼題

鳳鳴閣撰

春鳥

吉、
即のゆうてあるまきハ往かれーおまかはうてゆてやうる
萬葉のゆうてあるまきハ往かれーおまかはうてゆてやうる
め、あまかかーもかかーきはあひてみた船のゆう
萬葉のゆうてあるまきハ往かれーおまかはうてゆてやうる
め、あまかかーもかかーきはあひてみた船のゆう
江戸全
千柳亭
仙基
鹿鳴草園
二本松
門全
花廻屋
全千
春全
柳榮子
全落栗巻
稚枝

江戸
一閑齋

五、
鶴の飛
身をも

五、
身をも

身をも

五、
身をも

身をも

五、
身をも

身をも

五、
仙臺

千柳亭

五、
花城山

うきし

五、
身をも

身をも

鷺
水画



五、
あれあめと
枝やうす
うすゆと
けうゆと
かくゆと
うねゆと

金
柳葉子

五、
身をも
鳳梧園
花門

五、
身をも
倭文園

江戸



あひ鳴ひ入日の朝とて見ゆるをかひてあひのせたる

江村

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

米村

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

倭文園

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全和

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全足

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全千菊園

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全植廻屋

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全耕歌堂

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全正

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

四十五

全

あひ鳴ひ入日とて見ゆるをかひてあひのせたる

全

茂

蔭

觀

山

柳

栗

子

弓

野

村

米

戸

仙

墓

本

松

真

正

韋

堂

照

園

一

閱

齊

堂

江

戸

二

本

松

真

正

足

あひきうんまかといひまくとみゆくらむやるぢふのくわん

江戸

足

あひきうんまかといひまくとみゆくらむやるぢふのくわん

千 菊園

和 順通舍

全

あやふれどらまきかせとまはるはるまづくへまく

江戸琴通舍

まわむるはと模様目めらすへるのまくや紅色の文字
かかみのわはうめの物あつとまくとまくのをまく

全有茂

まわむるはわらひあまきかせゆくまつてよきとまく

全全

りわらひ間ねをわらあまく一のあめらうとまくとまく

全全

うわらひわらひわらひわらひわらひわらひわらひわらひ

全和全

こわせのまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

全全

わらひわらひわらひわらひわらひわらひわらひわらひ

全全

耕歌堂

馴 靜

高 望

倭文園

足

舊恒

江戸
至清堂

主、
百の名

うきよもの

花雀

うきよめん

みん

あめくわえ

主、
徳星樓

うきよの

花雀

うきよめん

みん

あめくわえ

全

千菊園

主、
千菊園

花雀

うきよめん

みん

あめくわえ

全

雲井園

主、
雲井園

花雀

うきよめん

みん

あめくわえ

全

家鶯

主、
家鶯

花雀

うきよめん

みん

あめくわえ

全

鷦鷯

主、
鷦鷯

花雀

うきよめん

みん

あめくわえ

不二門

花廻屋

主、
花廻屋

うきよめん

みん

あめくわえ

江戸清藻園

江戸清藻園

静時足春園満堂全和千全盛通舍全琴全草全宗全面全

四十九
狂歌房正全居全照全文真名子江戸照千全

狂歌房正全居全照全文真名子江戸照千全

山水連藏版

嘉永庚戌中秋發兌
淨書 川佐廣好
畫工 葛飾爲齋
彫刻 江川仙太郎

集歌九千六百餘首上木九百四十餘首

狂言綺語 讀佛乘緣
願於淨土 長會諸賢

五十



江戸牡丹樓
芝口屋
雲井園

